



松市で開かれた結成総会には約100人が参加し、県に対し撤回を求める署名に8月末をめどに取り組むことを確認しました。

# 高松市内2カ所で懇談会 宮本 徹 衆院議員ら



院議員は14日  
高松市内の2  
力所で開かれ  
た「希望を語  
るわくわく懇  
談会」で講演  
し、「共産党  
はおかしなこ  
と、不条理な  
ことに黙つて  
いない。そう  
した声を一緒  
に上げる仲間  
者。【2面につづく】



りました。アベノミクス以来  
民党が続けてきた「大企業には  
減税」「防衛費は膨大に」「日  
本を対中国戦争の拠点に」「政  
治とカネへの無反省」に対して  
庶民には物価高と所得の伸び悩み  
みをもたらし、「自民政権ではダメ」という流れが国民に生  
まれている。「政策も未来社会  
の展望も知らせれば知らせるほど  
共感や支持を拡げうる「歴史  
的チャンス」という話に「ああ  
そうなのか」と相槌を打ちまし  
た。会場では政治革新の戦列に  
加わる決意をされた方が何人も  
現れ、私も頑張らねばと決意し  
ました。

**高松港の特定指定撤回を  
郷土香川を戦場にするな！**



自衛隊などが有事を視野に民間港を軍港のよう整備・活用する特定利用港湾の問題で、高松市の高松港が指定された。

とに反対する「郷土ががわを戦場にするな！」県民連絡会が15日に結成されました。

ため、憲法9条を守るために頑張り「と呼びかけました。

県高教組の十河浩一委員長は「安保3文書は、子どもたちの内心まで愛国的に作り変え、軍事的価値を肯定させ、国のために命を投げ出す心を植え付けようとしている」と指摘。民主青年同盟の

「戦争になれば医療を提供できなくなる」（医師）などと語りました。呼びかけ人の4氏も「戦争はもうこりがり。むごいものです」と訴えました。1945年の高松空襲の惨状を経験した女性は、「戦争はもうこりがり」と語りました。

先日、雨が降りしきる中「希望がワクワク懇談会」（日本共産党）に参加しました。高松2会場とも満員の参加で、宮本衆議院議員や白川よう子四国ブロック国政対策委員長の訴えに聞き入

# 原水爆禁止！四国大会を開催

徳島県は「日本政府は核兵器禁止条約の署名・批准せよ」との意見書採択が残り2市になったことを報告。

原発問題では、能登半島地震と志賀原発から議論となり、愛媛県は2月に肱川地震と愛南町で地震が発生し「伊方原発でも被害があり、四国電力は当初何も起らなかつたと」言い、被害を小出しにするとして抗議をとしたと告発。

7月6～7日に第70回原水爆禁止四国大会in徳島が開催されました。参加人数は173人で、香川からは11人が2日間参加しました。

四国各県の活動交流があり、香川県は、通し行進者の署名行動をしたことや、**「山内金久さんと「青い空」**を歌い、行進後には地域での署名行動をしたことや、非核キヤンペーンと民医連の九条の碑の取り組みなど

高知県は、ビキニ問題では水爆実験が1946～58年まで続いたが、被災者は残留放射能の被害があり、当時のマグロ漁船累計100隻もの被害だ」とのべました。



## 原爆パネル展のご案内

日時：8月4日(日)～10日(土)  
10時～17時

会場：市民交流プラザ  
(瓦町FLAG8階)

主催：高松市平和を願う市民団体協議会

※ 南海道は、畿内および山陽道の南にあることから、古作日本の中の地域名として古作日本は五畿七道に地域区分されたが、その七道の一つ。紀伊淡路、阿波、讃岐、伊予、土佐の6カ国からなる地域。現在の四国全域と和歌山県、淡路島にほぼ相当する。

(2) 古代日本の官道名：7つの古代官道（勅使道km）のうちの1つで、南海道6カ国（國）の官府を通って都に通じる官道。官道上の30里（現在の5里、約16km）ごとに駅が置かれたが、南海道全体には21の駅が置かれていた。

※ 讀岐国には刈田、松本、三谿、河内（甲知）、甕井（みかい）、柞田（くにた）の6駅があり、讀岐六宿と通称された。

※ 讀岐六宿のうち通称地がほぼ確認されているのは刈

※ これらの駅に泊まれ  
は役人のみであり、庶  
野宿であつた。

The image contains two main parts. On the left is a black and white map of the Sanuki Province route, showing a network of roads connecting various towns like Miki, Tottori, and Matsuyama. On the right is a close-up photograph of a square bronze seal with a circular emblem in its center.

鄉土史辭典「笠居郷探訪」（一部抜粹）  
南 海 道  
著者 立山 信浩

(18) 延喜式(927年施行)には、各国から都への運上の方法や日程を定めており、それによれば讃岐国から都への貢納は1日の行程が馬38km、徒歩27km、車を引けば16km。